

## 令和元年度 第2回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

### 1. 日時

令和元年10月18日（金）18：30～20：00

### 2. 場所

桐生市役所 6階 605会議室

### 3. 出席者

#### （1）委員（12人）

会 長：宝田 恭之〔群馬大学大学院理工学府 特任教授〕  
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表〕  
委 員：西菌 大実〔群馬大学教育学部 教授〕  
根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕  
初山 和久〔桐生商工会議所 副会頭〕  
茂木 理亨〔桐生商店連盟協同組合 副理事長〕  
吉原 裕次〔新田みどり農業協同組合 総務企画本部本部長〕  
新井 悠大〔桐生広域森林組合 業務部部長〕  
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕  
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕  
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕  
村上 恵理〔桐生瓦斯株式会社業務部 特需開発課長〕

欠席者：天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕  
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕

#### （2）事務局（4人）

大木市民生活部長  
川島環境課長  
大木環境都市推進係長  
高橋主事

### 4. 議題

- （1）桐生市環境先進都市将来構想について
- （2）その他

## 5. 議事要旨等

### (1) 桐生市環境先進都市将来構想について

- 市の実施計画に係る平成30年度の進捗状況及び平成31年度の実施計画について説明。
- 桐生市環境先進都市将来構想の改定について説明。

### (3) その他

- 11月23日(土)に桐生地域地場産振興センターにおいて当協議会主催での講演会について説明。

### (4) 次回日程及び委員謝金についてのお知らせ等について

- 第3回協議会の日程についてお知らせ：令和2年2月予定
- 委員謝金について、協議会開催後、出席に応じ謝金を支払う旨のお知らせ

## 6. 委員意見（質疑応答）

### 【議題】 桐生市環境先進都市将来構想について

#### 【委員】

スローモビリティが活躍するまちを推し進めることは良いと思う。環境先進都市を見える化し、市民に関心を持ってほしい。

#### 【委員】

スローモビリティは環境先進都市がより明確になって良いと思う。今後は街づくりの機能とリンクしたものをつくると良いと思う。例として、メルボルンではトラムが走り、環状線がめぐっているので乗り降り自由のまちになっている。MAYU 路線が街中で有機的になれば良いと考える。

#### 【会長】

スローモビリティを起点として市民がまちづくりへ関心を持ち議論していければ良いと思う。

#### 【委員】

令和3年3月にバス運行の見直しを行うこととなっている。おりひめバスが実験でおわらないように地域住民が自主的になれるか。ネットワークができないと難しい。市民が参加できるようなステージづくりを計画に入れていけたら良いと思う。市民が活動している姿がわかるように計画に明確に示した方がよい。

#### 【委員】

電気自動車充電設備の種類についてどのようなものがあるのか。また、設置については積極的に検討していただきたい。

#### 【事務局】

電気自動車の充電設備は、急速充電と普通充電にわけられる。急速充電は、高速 PA のように短時間で充電できる場所での利用がメインとなる。普通充電は、家庭用をはじめ、ホテルやショッピングセンター等長く滞在する場所がメインとなる。現在市で検討しているものは、観光客が長く滞在して利用できる普通充電設備設置を検討している。整備費用については概ね100万円程度の見積りとなり、次年度予算要求に向けて検討していきたい。

#### 【委員】

コンパクトシティ化を啓蒙していくために、区域内の住民の税を減免する等計画に理解できる人へのインセンティブを付加しないと進まないと思う。

#### 【事務局】

税金の軽減については難しいと思われるが、中心部に住むことにより、インフラが手

厚くなり、公共交通の利用のし易さ等住民サービスでの差が最終的には出てくると思われる。

【委員】

住宅取得補助金については、中心部と郊外に住む人への差をつけたら良いと思う。

【委員】

地域電力といったエネルギーの自家消費のまちとして事業を実施しているところがある。再エネ発電の電気料金は高いと思うが、高い料金を払ってまで地域の住民に利用させる意味があるのか。反対されてしまうのではないか。構想に木質バイオマス発電設備整備とあるが、市は今後どのように考えるのか。

【事務局】

地域電力を事業化している都市を調査していきたい。

【会長】

自家消費の街がどのように成り立っているのか調査をお願いしたい。FIT制度をうまく利用できている街がうまく循環できていると思われる。再エネの導入について、再エネは高いのは当たり前である。現在国民は再エネ賦課金を負担させられている。また賦課金は高くなっている。わたしたちの生活に莫大なエネルギーが必要なのか。今一度考えてほしい。日本では年間1兆KWhの発電をしている。しかし幸福感はないと思う。化石燃料を基にした発電を減らすために、地域発電の再エネ発電を増やすために電気料金を多少多く負担するなら良いと感じる人もいると思う。将来性はあると思う。このままでは資源が枯渇する。遠い話ではないと思う。資源があるうちは難しいが、環境を変えていく意識の変革が必要である。

【委員】

負担なしに良いものはできないと感じる。コンパクトシティも自家用車に乗る環境がなくなると限り進展できないと感じる。コンパクトシティは街を再構築すること。これまでの市民の行動した結果が今の街の現状であり、今後は住んでいる人の環境が環境先進都市になるような流れで考えていければと思う。また先日の台風のような水害リスクについて、ハザードマップのように水害被害の見える化・リスクの見える化を環境政策にも置き換えると良いと思う。小手先の補助金事業をやめて、リスクを見える化し温暖化への危機感を市民に見せていかないと市民が行動できないと思う。

【委員】

桐生市の市域は広いので、当計画でどこのことを言っているのか分かりづらい。平面におとして地域を絞る等分かり易く記載していただきたい。

## 【その他】について

### 【未来の環境イベントについて】

#### 【会 長】

スローモビリティと次期総合計画について、総合計画審議会で感じたことは、現在の新総合計画の反省点を踏まえ、総合計画を知る人がほとんどいなかった事を考慮し、次期総合計画においては、市民とのつながりや市民を巻き込むことが重要であると感じた。

桐生市は高齢化社会や人口減少といった重苦しい雰囲気になりつつある。総合計画審議会では真剣に議論し、市民への見える化・将来につながること・予算がかからないことを踏まえ環境先進都市としてスローモビリティを提案した。

MAYU が動いていること、見えることで将来への希望が見えてくることに繋がると感じる。また、桐生の方向性が見えてくると思う。トヨタが時速19kmの車の開発をしているとの話を聞いた。また、前橋がスローシティとして世界に認められるなど、桐生市は7、8年前前から既に本気でやっていることが表に出ていないため追い越されていると感じる。そのため、スローモビリティのまちの宣言を押し出していきたい。宣言があれば議論が深まり市民が一つになると思う。今年も11月23日に「未来の環境」のイベントを開催し、スローモビリティのまち宣言に向けて動き出したい。一つの方向性を示すのが見える化であると思う。

### 【未来創生塾の活動について】

#### 【会 長】

桐生の様々な取組が独創的でレベルが高いことを桐生市民は知らないと思う。10月6日慶応大学で開催された社会システムの学会で未来創生塾のモデル事業を発表し奨励賞をもらうことができた。桐生は若い人達が様々な活動し、産官学民が連携できるのは桐生の魅力である。桐生には多様なステークホルダーがある。様々な活動が、知らないうちに学会でも認められる独創的なことをしている。桐生のレベルの高さを市民に知って欲しい自信をもって欲しいと感じている。また、このことを見える化することが次のステップである。

桐生は織物産業で日本を支えた街である。今度はスローモビリティの分野で支えられるのではないかと感じている。産官学民が協力していければと感じる。

— 以上 —